

2022年度 寄附金総額 217件 2,205,793円

ご芳名の敬称は省略させていただきます。

- | | | |
|--------------------|---------------------|----------------|
| (北海道) | 谷口 秀子 | 上村 浩 (2回) |
| 匿名 1件 | 池亀 由美子 | 森 章一 |
| (群馬県) | 田中 正美 | 真名子 南津子 |
| 安中二葉幼稚園 | 鈴木 寛・節子 | 正田 隆啓 (2回) |
| (千葉県) | 澁澤 浩二 | 西原 良信 |
| 京葉中部教会 (日基督教団) | 高柳 恵介 | 石川 琢馬 |
| 市川三本松教会 (日基督教団) | 匿名 8件 | 石島 美智子 |
| 千葉本町教会 | (神奈川県) | 千葉 寿夫 |
| 北柏めぐみ教会 | 横須賀教会 | 千葉 勝義 (2回) |
| ソフィア幼稚園 | 横浜キリスト福音教会 | 曾根 トシ子 |
| 稲村 茂 | 横浜海岸教会 (日キ教会) | 草野 幸子 |
| 宮本 和武 | 厚木キリスト教会 | 多田寛一・名淵智子 |
| 浅野 静子 (2回) | 厚木上教会 | 大久保 啓二 |
| (東京都) | 篠原教会 | 大川原 竜二 |
| カリック・レパントム修道会 | 新丸子教会 (日基督教団) | 大南 和子 |
| むさし小山教会 教会学校 | 翠ヶ丘教会 (日基督教団) | 長谷川 三紹 |
| 下北沢聖書教会 | 生田教会 (日基督教団) | 田中 誠一 |
| 弓町本郷教会 (日基督教団) | 藤沢教会 (日基督教団) | 渡辺 教 |
| 原宿教会 | 林間つきみ野教会 | 島村 照一 (2回) |
| 聖書友の会 | フェリス女学院中学校高等学校 | 禿 準一 |
| 西落合基督教会 (ホーリネス) | 横浜英和学院 | 二階堂 和博 |
| 早稲田教会 (日基督教団) | 関東学院中学校高等学校 | 畠山 辰美 |
| 町田聖書キリスト教会 | 湘南白百合学園小学校 | 板橋 毅 |
| 田園調布教会 (日基督教団) | 捜真女学校高等学部・中学部 | 福井 信一 |
| 東村山教会 (日基督教団) | 函嶺白百合学園中学・高等学校宗教委員会 | 平井 俊彰 (2回) |
| 番町教会 (日基督教団) | ドレーパー記念幼稚園 | 落合 宏 (2回) |
| 霊南坂教会 (日基督教団) | 厚木幼稚園 | 和田 智章 |
| 暁星小学校 シャミナード会 | 高座みどり幼稚園 | 澤田 芳巳 |
| 玉川聖学院 | 桜ヶ丘幼稚園 | 盧 清貴 |
| 恵泉女学園中学・高等学校 | 相模翠ヶ丘幼稚園 | 齋藤 満江 |
| 聖学院小学校 | 株式会社カンテレ (2回) | 高橋 瑞穂 |
| 青山学院初等部 | 株式会社さくらメンテナンス | 高橋 和秋 (2回) |
| 青山学院中等部 | 株式会社小島組 (2回) | 匿名 20件 |
| 東洋英和女学院 中上部 宗教委員会 | 井出 澄子 (2回) | (山梨県) |
| 日本聾話学校 | 井上 雅美 | 富士吉田キリストの教会 |
| 普連土学園 宗教委員会 | 遠藤 榮助 | 峽南幼稚園 |
| 明治学院高等学校 | 皆川 美智子 | 市川幼稚園・ひかりの家学園 |
| シオン幼稚園 | 梶山 祥子 | 石井 幹博 (2回) |
| 原宿幼稚園 | 吉岡 基 | (新潟県) |
| 桜美林幼稚園 | 古田 和彦 | 株式会社ベーシック (2回) |
| 西荻窪キリスト教会・西荻まこと幼稚園 | 高橋 和子 | (石川県) |
| 草苑幼稚園 | 佐野 知子 | 川上幼稚園 |
| 鶴川シオン幼稚園 | 才木 隆児 | 匿名 1件 |
| 井上 徹哉 | 三原 正俊 | (愛知県) |
| 岡田 知恵 | 山下 眞佐江 (2回) | 一宮教会 (基督兄弟団) |
| 菊地 哲郎 (3回) | 山田 耕二・登美子 (2回) | 河瀬 浩 |
| 宮岡 佳子 (2回) | 山田 田鶴子 (2回) | (京都府) |
| 金井 和夫 (2回) | 市川健二・訓子 (2回) | 同志社中学校 |
| 後藤 省二 | 守谷 貞夫 | 同志社幼稚園 |
| 鹿村 洋人 | 小川 喜道 (2回) | 越川 弘英 |
| 小原 江理子 | 松沢 明子 | (大阪府) |
| 深谷 春男 | 松本 崇 (2回) | 堺教会 |
| 石守 昭彦 | 沼澤 和夫 | 増池 重信 |

- (兵庫県)
- 関西学院宗教活動委員会
- 島田 恒 (2回)
- (奈良県)
- 大和キリスト教会 支援委員会
- (鳥取県)
- 匿名 1件
- (岡山県)
- 清心中学校・清心女子高等学校
- (愛媛県)
- 長内 敬一
- (福岡県)
- 市津 敏子

- <使途指定寄附金>
- 18件 730,549円
- アガベセンターのために
- 河内 隆史
- 佐藤 和子 2回
- 初瀬 敬一
- 相模原市東林地区社協
- 渋谷教会
- 匿名 1件

- アガベ番館のために
- 中塚 正彦 2回
- 藤本 直美
- 匿名 4件

- もくせい園のために
- 和田 誠也

- アガベ作業所のために
- 阿久津 英雄
- 株式会社リハーツ
- 赤い羽根共同募金年末たすけあい援護金

- 新宿区立新宿福祉作業所のために
- チームニッポン社会振興財団

- アジア研修交流事業のために
- 日本基督教団翠ヶ丘教会
- 牧 由希子



奉仕団ニュース

社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団 第36号 2023年7月

URL: <http://www.jcws.or.jp/houjin/houjintop> Tel 03-3202-0486

Fax 03-3202-0487

笑顔の効用

理事長 渡辺 教

この3年半の間、新型コロナウイルス感染症に悩まされてまいりましたが、5月からは感染症の中ではインフルエンザと同等の5類に分類されたことで、世の中も活発に動き始めて観光地なども賑わいを取り戻したようです。

当奉仕団でもコロナ禍によって各施設では大変な苦勞、努力をして何とか乗り越えてまいりました。その間、利用者の方たちは大変窮屈な思いをしていたと思いますし、保護者の方々にもたいへんご迷惑をおかけ致しました。

そのような中、各施設でようやく以前の日常が回復してまいりました。

座間のアガベセンター、アガベ作業所では、受注も回復しており、昨年度は若干の工賃向上も行うことが出来ました。今年は自主製品の販路拡大等で更なる向上が期待されます。なお、座間市立児童発達支援総合センターの業務受託が当法人に決まり、10月には座間市サニーキッズ、障がい児・者基幹支援センター等が新しい場所で開所を予定しており、現在その準備を進めております。

板橋のアガベ東京センターのレストランモニカでは、植物工場で作られた自家製の新鮮な野菜を使ったグリーンラップサンドが「板橋のいっぴん」に選ばれ、地域との交流に貢献したいへん好評を得ております。新宿の福祉作業所では、外部活動も行われ始めて今年が期待が膨らんでいます。板橋区障がい者就労支援を行っているハートワークでも3年ぶりに外部活動のアクティビティを再開し、体操やボウリングに多数の方が参加されました。

法人本部のアジア研修交流事業では昨年度モンゴルから来日し研修を受けられたウヤンガさんが、研修の成果を早速現地の障がい者施設での実践に結びつけようと、今年5月にモンゴルの行政機関の方や障がい者の保護者の方たちを連れて再来日され障がい者施設等

の見学をされました。成果が実ることを祈っております。

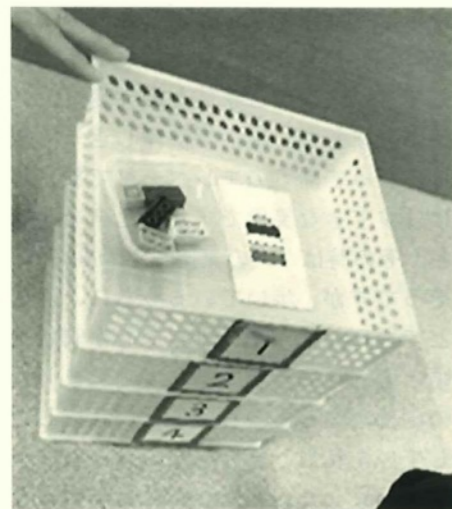
私事ですが、毎年行っていた小学校のクラス会もコロナの間は亡くなった先生の墓参りのみとなっていましたが、今年は5月にいつものように居酒屋で開催することができました。毎年15人程度集まるのですが、常連の他毎回懐かしい顔の人が数人参加します。今年は社会人になってから会っていなかったMさんが参加しました。50年近くドイツ、カナダで生活してきた彼女はご家族との大変な苦勞の思いの丈を話されました。生活で憔悴しきって教会に行き、祈り終わって帰りのエレベータで乗合わせたシスターに「すてきな笑顔ですね」と声をかけられたとのこと。その時は「人の気持ちもわからずに。」と思ったそうですが、歩いているうちに、声を掛けられたことで逆に元気が湧いてきて心が晴れた、と今も幼い頃と変わらぬ笑顔で話してくれました。彼女の過去の話はなんともつらい難しい話でしたので返答に窮していた私も、その笑顔の話に救いを見つけ元気をもらいました。どんな時にも笑顔になれるというのは素敵なことですね。笑顔はどんなときにも、私たちの心を柔和にしてくれます。信号で止まったバスの中から外を見ると、幼児が歩道で大の字になり歩くのを嫌がっていました。母親が抱き上げて青信号を渡るところを見ると、その子はニコニコ顔でした。「今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。」(ルカによる福音書6:21)

人々の笑顔の好きなイエス様は、子供たちを祝福され、弱い者、小さな者を助けて下さっていますが、人間社会に現れたイエス様ご自身の笑顔はどのようなものだったのでしょうか。これからも笑顔で、日本キリスト教奉仕団はイエス様の教えの具現化のために歩んでまいりますので、当奉仕団の活動にご理解とご支援をお願いいたします。

アジア研修交流事業

「アジア研修交流事業」では、1980年以來からアジアの国や諸地域から障がい者福祉事業者を日本に招き、当奉仕団の福祉施設や他の障がい者福祉施設を見学していただき、障がい者支援における研鑽を深めていただくという交流を行ってきました。これまでに、アジア15の国や地域から85名の研修生を受け入れてきました。2022年度は、「モンゴル5か年計画」の2年目として、ウランバートル市でモンゴルダウン症協会の経営責任者をされているナランジャルガルさんを11月の3週間、日本に招待いたしました。

ナランジャルガル研修生は11月4日に来日し、研修では11月7日から24日まで23ヶ所の施設や特例子会社を見学して、各施設の事業内容、活動計画、組織構成について担当者から説明を受けられました。幼児から高齢者に至る障がい児者への様々なサービスのあり方について学ぶことで、モンゴルでも適用できるアイデアをたくさん発見されていたようです。



(上) 幼児が作業しやすいように絵で視覚を通して伝え、番号で作業順番を示している

「例えば、幼児の障がい児に対して、基本的な動作や生活への適用訓練を与えるために、身近にある小物を工夫して自作教材を作り指導していました。また、就労支援のための施設では、独自の補助具を用いることで、障がい者でも正確に部品の組み立てができるような仕組みが工夫されていました。他にも、障がい児者の保護者に対する様々な支援の取り組みがなされていて、保護者が孤立しないように相談できるセンターが設置されていました。」と感想を述べていました。



(上) 補助具を用いて正確な組み立てを可能にしている

また、「インフラの整備では、モンゴルでは依然として障がい者軽視の状態が続いています。しかし、日本では、道路や建造物や交通機関などのあらゆる場所が障がい者を考慮して造られていました。そうしたことから、障がい者を社会の中で受け入れていくための環境づくりの提言をモンゴル政府や社会に発信していく必要を強く感じました。また、障がい者であっても、それぞれ違った性格、才能、特技を持ち、好き嫌いも違うために、障がい者をひとくくりにして言い表すことは不自然だと気づきました。同じダウン症でもそれぞれが違うので、その人の特性に合った環境、指導、支援が必要だと分かりました。」と語っていました。

今回は、障がい児の保護者と研修生との面談も計画しました。研修生自身がダウン症のお子さんを抱える中で、知的障がい児を持つ親の立場から支援サービスのあるべき姿について多くのアイデアを得たようでした。このように、障がい児を抱える親御様と様々な体験を共有できたことは、今後モンゴルで保護者と向き合うために多くの収穫となったに違いありません。

最期に、最も印象的であったことの一つは、どの施設でも障がい者個人の意思を尊重したサービスが提供されていて、職員が真心をもって障がい者に向き合っている姿であったということでした。このことはモンゴルでは見られない光景と映ったようでした。



アガベセンターでの見学研修の様子

ここで学んだことの中には、モンゴルの制度の違いや地域住民の意識の違いなどによって、すぐに母国で実施できないものもあったようです。そんな中で、研修生は「モンゴル国の福祉制度を改善し、障がい者向けのデイサービスや成人向けの自立支援センターの開設、普通学校の特別支援学級などの課題を解決するために今後、努力していきます。」と決意を語っていました。

週末には、東京都内のスカイツリーや浅草を見学したり、横浜では船での港湾クルージングを楽しんだりして、日本の文化や歴史に触れる体験もいたしました。今後、ここで学ばれたことを生かして、母国モンゴルで障がい者福祉の働きに活躍されることを期待しています。



修了証授与など閉講式後の記念写真

加えてもう一つの報告として、昨年5月～6月に研修生としてお招きしたウヤンガさんが、モンゴルの行政機関、非政府組織などの代表者と協力し、障がい者のデイサービスと短期間受け入れ施設をモンゴルで開設することになりました。その施設運営にあたって日本で見学研修を受けたいという申し入れがあり、この5月に8名の福祉関係者が来日し、1週間、当アガベセンターを始め、いくつかの障がい者施設の見学を致しました。

(下の写真)



モンゴルから施設見学に来られた一行の方々



就労施設を見学するモンゴルからの一行の方々

このような研修交流の働きは、その主旨に賛同する団体や個人の献金と寄附金によって支えられ運営されています。皆様の心温まるご支援によって、この働きが継続されていることを心から感謝すると共に、今後とも更なる温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。